

会 議 概 要

会議の名称	令和5年度第2回湧別町部活動地域移行検討委員会
開催日時	令和6年2月13日（火） 19時00分 開会 20時00分 閉会
開催場所	湧別町文化センターさざ波 多目的ホール・中会議室
出席者名	委員～杉山、綾部、川上、高野、早川、豊原、豊田、藤井、黒川、下田、牧村、畠山、石川、片岡、工藤、遠藤、小島 各委員17名 教委～阿部教育長、坂本課長、大口課長、澁谷室長、藤本主幹、宍戸主幹 6名
欠席者名	兼田委員
傍聴人の数	なし
会議の内容	1. 開 会 2. 委員長挨拶 3. 情報交換 (1)ほっかいどう部活動・地域クラブサポーターバンクについて (2)講演会の感想等について (3)各学校の部活動の状況について (4)各スポーツ・文化団体の活動状況について 4. 次回会議の開催時期について 5. 閉 会
会議資料	令和5年度第2回湧別町部活動地域移行検討委員会議案
会議録	<input checked="" type="checkbox"/> 有 （ <input type="checkbox"/> 全文筆記 <input checked="" type="checkbox"/> 要点筆記 ） <input type="checkbox"/> 無
備考	

てん末書

1 日時

令和6年2月13日(火) 19時00分～20時00分

2 会場

文化センターさざ波(多目的ホール、中会議室)

3 会議及び用務

令和5年度第2回湧別町部活動地域移行検討委員会
(湧別町部活動地域移行に関する講演会終了後)

4 出席者

- ・検討委員会委員17名(兼田委員欠席)
- ・阿部教育長、坂本課長、大口課長、澁谷室長、藤本主幹、宍戸主幹 6名
- ・助言者 NPO 法人幕別札幌内スポーツクラブ クラブコーディネーター 小田 新紀 氏

5 結果要旨

1. 開 会 坂本課長
2. 委員長挨拶 黒川委員長
3. 情報交換

(1) ほっかいどう部活動・地域クラブ活動サポーターバンクについて ※別紙資料説明

- ・指導者の大きな課題は、指導者の確保である。北海道教育委員会では昨年3月から人材バンク制度を設置している。
- ・道内の中学校などにおいて、部活動指導員や外部指導者、部活動指導する方、また、部活動の代わりに地域クラブの指導者として活動していただける方を事前に登録して学校や地域の求めに応じて情報提供するという人材バンク制度である。部活動指導員、外部指導者、地域クラブ活動指導者の3つの言葉が出てきている。部活動指導員と外部指導者のこの2つは、あくまでも学校部活動における顧問以外の指導者であり、民間人が対象となっている。地域クラブ活動指導者というのは学校を離れた地域で指導される方です。民間人だけではなく、兼職兼業許可を受けた学校教員も対象になってくる。
- ・1月24日現在、人材バンクの登録状況については、野球、ソフトボール、サッカーなどのスポーツ系に加えて下段の方には文化系も含めて480名の方が登録されている状況である。オホーツク管内は18名の登録状況である。湧別町の登録を聞いたところ、本町で指導できる方は登録4名いる。バスケットボール1名、ラグビー1名、吹奏楽2名、合計4名でいずれも湧別町外に住んでいる方で、湧別町でも指導できるということで登録されている。指導者は登録された方の中から選ばなくてはならないというわけではない。登録されていない方も指導者はいるので、あくまでも登録されている方が意思表示しているということをご理解願いたい。

(2) 講演会の感想等について

- 豊田委員→色んなスポーツがある中で、より競技志向で「アスリート」として上を目指したい子が出てきた場合はどういう形が良いか。
- 小田先生→幕別町の近隣には、帯広市においてクラブがあり、そういうところに行ってもらうしかないと思っている。選択肢はないわけではないので、満足できない子どもは他のところで親御さんに任せるしかない。そこまで面倒見切れないかなと思う。逆にこの町では、「オリンピック選手を育てよう。」という考えもある。

(てん末書用紙)

「この町から徹底的に鍛えて英才教育をしていこう。」というのは駄目なことではない。個人的は、小中学校の段階ではスポーツの魅力を楽しみながら活動していく方が良いと思っている。

遠藤委員→幕別町では、小学生から高校まで地元に残る子どもは多いのか。地方に出る子どもは、勉強、部活動のどちらがメインで出るのか。

小田先生→高校まで残るといふ子どもは少ない。地方に出る理由は様々である。決して進学率の高い高校ではないため、子ども達が帯広に出たいという気持ちもわかる。現実はそのようであるが、考え方として「この町で子どもを育て行きましょう。」というスタンスである。地元に残るかどうかは別である。

石川委員→スポーツ推進委員をやっており、関わりたいと思っているが指導できるものがない。どういふ関わり方があるのかお伺いしたい。

小田先生→指導といふことで考えるのであれば、規定のスポーツでなくても良い。小中学生では、トランポリンやニュースポーツ色んなスポーツは探せばある。この地域に持ってきて子ども達の可能性の選択肢を作ってあげることが大事である。今までは部活動や少年団とかあるものしか知らないし、できないと思っているので、例えば「モルック」といふのは子ども達は大好きですし、種目の紹介をしながらまさにスポーツ推進委員といふのは魅力を伝える。人口を増やすことが役割ではないか。

石川委員→いざ行動し、子どもを預かるとなった場合、我々のような特別極めていないものが親御さんに許してもらえるのか。「なぜあの方が教えてるの？」とか言われた場合、指導する側がつかなくなってしまふ。少なくとも元国体位まで行ったとか、高校時代有名な選手であったといふ方が指導すれば、親御さんも納得するのではないか。「部活動」を指導するとなると親御さんの理解が必要であり、許してもらえるのか。

小田先生→道も考えているところがあつて、部活動指導員といふ資格があつていいのかなと思ふ。技術が高いとか元国体選手とかは関係はなく、「子どもを教える」といふことに対しての最低限の資格が日本スポーツ協会にもある。指導者、コーチとしての資格。先生とか元国体選手とか関係ではなく、どうやって子どもを指導していくかが大事ですし、そういった面で難しい資格ではない。「この資格を持っている人たちが湧別町の指導に関わっているんですよ」といふようなことが分かりやすいかなと思ふ。

石川委員→移動の問題が言われていたが、技術指導はできないけど、毎回ではないが、頼まれた時に移動する時の運転手だとか安全に会場に連れて安全に帰ってくるという引率を引き受けるといふ関わりも必要になってくるのではないか。

小田先生→そういう方がたくさん出てくれば良いと思っている。スポーツ指導はできないが、「こういうことができますよ」とか「サポートできますよ」といふ方が出てくる可能性がある。

片岡委員→地域との関わりについて、「改革」といふことで変えていかなければならない時期に来ていると思ふ。湧別町においては、やはり人口減少でスポーツに関わらず、吹奏楽も町内の活動している子ども達が減ってきていると感じている。少年団みたいな形で吹奏楽やブラスバンドなり活動している他町村も実際あるので、今後そういったところで、裾野を広げていく必要がある。文化的なことを考えると、吹奏楽の他に華道、書道を地域でやられている方が違つた部分の支援ができるのではないか。やれることが少なくなつてきているが、絞らないである程度の選択肢があつた方が良いのではないかと感じている。

(てん末書用紙)

小田先生→子ども達は音楽の魅力を親しむ。吹奏楽という形にこだわらずに、1週間の中で吹奏楽3日、華道1日、スポーツ1日というように今まではどうしても1つに絞られていた。そういうこともできるということも可能性としてはある。

(3) 各学校の部活動の状況について

杉山委員→ゆうべつ学園の部活動は、現在5つの部活動があり、部員数は、野球3名、男子バスケットボール5名、女子バレーボール13名、陸上部1名、吹奏楽部14名と活動している。現在、後期課程(中学校の先生)については、「部活動を持ちません。」という明確な意思表示をする先生も中にはいる。今後、そういった先生も増えていくことが予想できる。現在、5つの部活動は2名以上の複数顧問体制が組んでいる。来年度は、後期課程の特別支援学級が2名減り定数が減るため、複数顧問体制が確保できないことが確実なため、歴史ある陸上部の募集停止をかけることとした。この背景に色々あるが、職員数は20名弱で一定程度いくが、5つ部活動があると共倒れの可能性がある。陸上部を残念ながら募集停止したのは、野球、バレーボール、バスケットボールが地域に少年団活動があることであり、陸上部は少年団活動がない。アンケートを小学3年～6年生で取ったところ、4学年で陸上の希望者が5名と非常に少なかったことが理由である。吹奏楽部はお兄ちゃん、お姉ちゃんがいるため、希望が多かった。本校にはサッカー部はないが、上湧別中学校でサッカー部にオール湧別の制度で活動している生徒がいる。アンケートの中に現在のサッカー少年団の団員はほとんど湧別地区であり、ゆうべつ学園で部活動を作ってくれないかという希望があり、これ以上増やせない。上湧別中学校との協議の柱になってくる。課題は地域移行も含めて山積みである。

綾部委員→上湧別中学校の部活動は、7つ部活動があり、バスケットボールは男女あり、今現在の生徒数が67名で単純で割っても1つの部活動は10名割っている状況であり、自校単独で活動できている部活は、男子バスケットボールとテニスでそれ以外の種目は、オール湧別と他町との合同でこういった形で維持をしている状況である。

川上委員→芭露学園の部活動は、後期課程は11名で4人が卒業する予定で新しく入ってくる生徒が2名で部活動というのは非常に存在しにくい。バドミントン部と文化部とわりとオール部に近い自分達で何かをやる状態。そういう部活動をやっている状態である。バドミントン部も上位を目指して頑張りたいという子もいれば、みんながやっているからやっているという生徒もいる。指導者はバドミントン専門にやっていないので、一生懸命自分達で努力しながらやっているが当然限界がある。競技を目指して上位大会を目指していくのとはできる限りスポーツを楽しむのと上手にこなしていくというのは現実問題として大変な状態。今現在、先生方が直面している状況である。保護者にニーズや考え方、町の方針、こういうものだというものを示して理解をしていただくにはかなりの山がある。

早川委員→中湧別小学校は、金管バンドが10名おり、全校の5分の1が金管に所属している。他にもバレーボール、バスケットボールで少年団活動している子ども多数いる。どの種目に入るのか。割と子ども達同士で誘い合ったりして、和気藹々でやっている。課題としては、金管の指導者は特殊な技能が持っていないとなかなか指導できない。さらに我々教員は移動が伴うため、また顧問が変わると指導の内容が変わってきたりするので、なるべくなら同じ方に教えてもらう方

(てん末書用紙)

が良い部分もあると思う。顧問も複数体制で行っているが、メインの顧問が中心になって教えているので、現在教員の働き方という部分では、金管の顧問たちは働き方度外視しで活動していて、本人たちは好きで楽しんでやっていると言っているが、私としては、長時間勤務が危惧される。本人たち顧問のやる気もあるので、それを伸ばしつつ、子ども達の技量を伸ばしつつ「バランス」を取りながら小学校としては進めていますし、子どもたちが何より「音楽を楽しんで中学校につながっていくということがまず大事にしていきたいと思います。」なんでもかんでもがむしゃらでやるのではなく、「楽しんで中学校に上げていくのが小学校の役目ですよ。」と伝えながら日々指導に当たってもらっている。

高野委員→湧別高校では、少子化ということで、2間口で募集しているが、1間口の状況である。生徒が減ると教員の数も減る。私が本校に来て2年目であるが、令和4年度は16名の教員であったが、今4名減って12名となっている。そういう中でもともと部活動があったが、今年度4月にテニス部とeスポーツ部が新設された。教員の数が減る中で顧問が足りないということで色々やりくりしているが、来年度もう教員が1人減る見込みである。さらに顧問の状況が厳しくなることから、陸上部がここ2年ほど新入部員入っていないため、陸上部が無くなるという方向に進むのではないかなと思う。なかなか既存の部活動を簡単に無くしたり簡単に作るのは難しい。そういうことに我々対応しなければいけないと今日講演を聞いて感じた。そういう中で、部活動改革ということで、地域移行の形にしてもらえると小中高が連携できて、一貫して生徒を地域で見守れるのではないか。本校の教員は部活動をやっている教員が多くおり、秋田県出身でサッカーでインターハイに出ている選手や北見枝幸出身で全国中体連に出場しているサッカーの選手がいる。さらに弓道で国体に出ている教員がいたり、柔道でフランスに合宿に行ったとか他にもバスケット、バレーボール専門がいたり、バドミントンが教えられるそういったものがあるが、なかなか学校だけでは発揮できないため、町のためにも地域のクラブチームだったりだとかそういうところに本校の教員にも指導することで、やりがいを生かすことができるのではないかなと思う。

(4) 各スポーツ・文化団体の活動状況について

畠山委員→長男がゆうべつ学園7年生(中学1年生)であるが、同級生が15人のうち男子は5人しかいなくて、1人しか野球をやっていない。湧別町見まわしても同級生は1人しか野球をやっている子がいない。ふだんの平日は陸上部に属して活動しており、土日は大空リトルシニアに通っているが、陸上部が無くなってしまふ。湧別マリナーズ(少年野球)は人数がいるものの、中学校に上がった時にどうなるのか。野球をしない子もいると思うが、保護者も心配である。芭露学園の子がオール湧別で野球をやろうと思っても人数が足りない状況である。紋別市も少年野球は強いが、中学校には野球部がない。湧別の枠を超えて野球ができる環境をどう考えていくか。今日の講演を聞きながら感じた。長男は同級生と一緒に野球をやりたかったが、他の地域に通う形になった。「子ども達の思いに目を向けていく。」ということを実践していきたいと思っている。

小田先生→課題悩みは共通している。子ども達を中心にする改革でなければいけない。色んなご意見があると思うが、「子ども達にとって」というスタンスで議論の中心になっていけば良い。子ども達の思いを大事にしていく。安平町では、子ども達を集めてワークショップで正直な話を子ども達に出してもらおうという取り組みをされているところもあるので、色んな声を集めながらこういった議論をし

(てん末書用紙)

ていく必要がある。

(全体をとおしての意見)

豊田委員→第1回検討委員会の時に、野球に関して中学校の指導者の方と話をしたい。と話されていたが、野球部の顧問も話しをしたいと言っていた。その他、サッカーやバレーボールなど地域の少年団の指導者とお話しをしたいと上湧別中学校の顧問の先生方は言っていた。なかなかこういう場でなければ話をするのは難しいのかなと思うので、ぜひ、こういった場で野球に限らず、各競技で少年団の指導者の方とどういった形でその競技をやっていくのか。ということを含めて話をしていけたら、今後の地域移行の競技ができる範囲で見えてくるのかなと感じている。

黒川委員長→それぞれの競技の地域の指導者の人とお話しをしたいという意見については、検討していきたい。

4. 次回会議開催時期について

・次回会議は、4月頃を予定。委員ができるだけ多く出席できる日を設定するものとする。

【次回会議に向けて】

※今回出された意見等を整理集約して、次回会議に向けての論点整理や必要な資料の収集をしていくものとする。

5. 閉 会

令和5年度第2回 湧別町部活動地域移行検討委員会議案

日 時：令和6年2月13日（火）

講演会終了後

会 場：湧別町文化センターさざ波

1. 開 会

2. 委員長挨拶

3. 情報交換

(1) 講演会の感想等について

(2) 各学校の部活動の状況について

(3) 各スポーツ・文化団体の活動状況について

(4) ほっかいどう部活動・地域クラブ活動サポーターバンクについて

資料1

4. 協議事項

(1) 湧別町における部活動地域移行の取組方針について

(2) 地域移行に向けた課題と、その対策について

(3) その他について

5. 次回会議の開催時期について

6. 閉 会

湧別町部活動地域移行検討委員会委員名簿 (◎委員長 ○副委員長)

任期：令和5年10月26日～令和8年3月31日

No	区分	住所	氏名	役職等
1	1号委員 (学校教育関係者)	湧別町錦町 266 番地の 2	杉山 英司	ゆうべつ学園校長
2		湧別町北兵村一区 592 番地の 1	綾部 雅一	上湧別中学校校長
3		湧別町芭露 450 番地の 1	川上 智広	芭露学園校長
4		湧別町中湧別南町 844 番地の 1	高野 龍彦	湧別高等学校校長
5		湧別町中湧別南町 915 番地	早川 大介	中湧別小学校校長
6		湧別町錦町 266 番地の 2	豊原 隆之	ゆうべつ学園教頭
7		遠軽町西町 3 丁目 4 番地 25	豊田 修司	上湧別中学校教諭
8		湧別町芭露 450 番地の 1	藤井 陽平	芭露学園教諭
9	2号委員 (スポーツ・文化活動関係者)	湧別町中湧別南町 902 番地の 1	◎黒川 隆	体育協会会長
10		湧別町北兵村一区 97 番地の 35	下田 英人	スポーツ少年団本部長
11		湧別町北兵村三区 513 番地の 13	牧村 宣幸	スポーツ少年団事務局長
12		湧別町栄町 145 番地	畠山 智光	野球少年団指導者 (湧別マリナーズ)
13		湧別町上湧別屯田市街地 53 番地の 26	兼田 真一	サッカー少年団指導者 (FC Miragross Jr.)
14		湧別町錦町 186 番地の 14	石川 克巳	スポーツ推進委員長
15		湧別町中湧別南町 1011 番地の 14	片岡 幸生	文化連盟理事 上湧別吹奏楽団代表
16	3号委員 (有識者)	湧別町登栄床 349 番地	○工藤 雄希峰	社会教育委員
17		湧別町栄町 35 番地の 16	遠藤 道代	ゆうべつ学園 P T A 会長
18		湧別町中湧別北町 3018 番地の 37	小島 友子	上湧別中学校 P T A 役員



運動・スポーツ

&

文化・芸術

ほっかいど

部活動

地域クラブ活動

サポーターバンク

はじまるよ
部活動の
地域移行

フリー素材ぱくたそ (www.pakutaso.com)

中学生・高校生のスポーツ・文化活動に皆さんの力をお貸しください。

北海道教育委員会では、道内の公立学校で行われる「部活動」や、各地域で部活動に代わって行われる「地域クラブ活動」の指導者の候補者として登録していただける方（サポーター）を募集しています。

「スポーツや文化活動の指導経験がある方」、「競技や文化活動等の経験があり指導が可能な方」は、北海道の子どもたちのために、登録をご検討ください。

ご登録はこちらから

<https://www.harp.lg.jp/qMnIAJEu>

フォームへの入力難しい場合のみ、道教委のHPから様式をダウンロードし、郵送又はFAXにて送信してください。



北海道教育庁 学校教育局 部活動改革推進課

住所：〒060-8544 札幌市中央区北3条西7丁目

電話：011-206-6067

<https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gkk/supporterbank.html>

ほっかいどう部活動/地域クラブ活動サポーターバンクとは

道内の市町村立中学校等や道立学校において、**部活動指導員**や**外部指導者**として「部活動」の指導等を行っていただける方、中学校の部活動の代わりに各地域で行われる「**地域クラブ活動**」の**指導者**として活躍いただける方を名簿に登録し、市町村教育委員会や学校、地域クラブの求めに応じて情報提供します。



学校部活動における指導者

部活動指導員

- ・学校教育法施行規則に定められた学校職員（非常勤）
- ・校長の監督の下、顧問として部活動指導や大会引率等を行います。
- ・報酬※が支払われます。
- ・勤務条件は市町村や学校により異なります。

※道立学校の場合：1,600円/時間

外部指導者（外部コーチ）

- ・顧問の教員とともに、技術指導等を行います（単独での指導は原則行いません。）。
- ・報酬等の有無、勤務条件等は市町村や学校により異なります。



地域クラブ活動指導者

- ・学校部活動の代わりに地域で行われるスポーツや文化活動の指導を行います。
- ・中学生への指導が基本ですが、多世代が参加するなど、地域によって多様な形態があります。
- ・勤務条件は活動の実施主体となる各団体の規定に基づきます。

応募資格

- ・道内の中学校等や道立学校における部活動のほか、地域クラブ活動での指導等が可能な方（登録の段階では、**教員免許状や競技等の指導資格などの要件は設けておりません。**）
- ・地方公務員法（昭和25年法律第261号）第16条及び学校教育法（昭和22年法律第26号）第9条の欠格条項に該当するなど、社会通念に照らし、指導者として不適切と認められる方は登録できません。

※ 公立学校教員が、**地域クラブ活動の指導者として任用されるためには、所属する学校の設置者である教育委員会から兼職兼業の許可を得る必要があります。**

留意事項

- ・登録情報については、サポーターを選考、任用する目的のため、北海道教育委員会のほか、関係市町村教育委員会や学校、地域クラブで共有します。目的外での使用は一切いたしません。
- ・登録者が必ず任用されるわけではありません。
- ・本サポーターバンクに関するより詳しい情報は、下記のホームページを御覧ください。

<https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gkk/supporterbank.html>

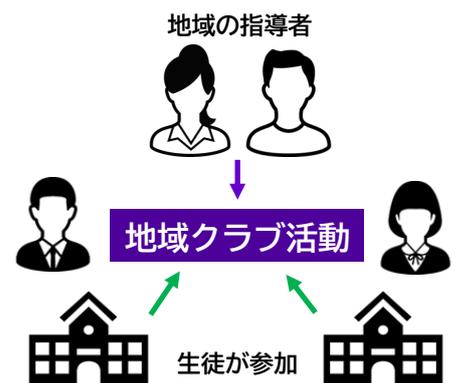


部活動の地域移行とは・・・

学校の部活動は、子どもたちにとって、スポーツや文化芸術等の活動機会であるとともに、貴重な人間形成の機会ですが、少子化による生徒数の減少に伴い、活動に必要な部員数を維持できないなど、全国的に部活動の継続が難しくなっています。

このような状況を受け、国は令和5年度から公立中学校の休日の部活動を段階的に地域の活動（地域クラブ活動）へ移行する方針を示しており、北海道においても各地域で検討が進められています。

地域クラブ活動の実施主体は、行政のほか、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ・文化団体、民間事業者、大学、クラブチーム、地域学校協働本部等多様な主体が考えられ、地域の実情に応じて体制が整備されます。



ほっかいどう部活動・地域クラブ活動サポーターバンク登録者内訳【総括】

種目	道全体	空知	石狩	後志	胆振	日高	渡島	檜山	上川	留萌	宗谷	オホ	十勝	釧路	根室	計
野球	2	4	23	1	4	0	5	1	3	1	0	1	6	2	2	55
ソフトボール	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	1	4	1	0	9
サッカー	1	3	10	2	1	0	4	1	4	0	0	2	2	0	0	30
バスケットボール	2	4	16	2	3	1	1	1	1	1	0	1	1	2	2	38
バレーボール	1	2	13	1	6	2	3	0	1	1	0	0	2	1	0	33
テニス（ソフトテニス）	2	0	5	0	3	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	13
卓球	1	1	3	0	0	0	4	0	1	1	0	0	0	1	0	12
バドミントン	0	5	7	0	4	0	2	1	3	0	1	1	1	1	0	26
ラグビー	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	1	0	0	5
体操	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
水泳	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	1	2	0	0	6
ダンス	2	1	2	1	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	9
スキー	0	4	8	2	0	0	2	0	2	1	0	1	2	0	0	22
スノーボード	0	1	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4
スケート	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	4
アイスホッケー	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
スケートボード	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
陸上	1	2	6	4	0	0	1	0	3	2	0	0	1	1	0	21
柔道	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2
剣道	0	2	3	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	8
弓道	1	0	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	6
空手	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	3
少林寺拳法	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
吹奏楽	9	8	15	9	7	4	4	5	6	4	3	5	4	3	3	89
合唱	1	2	5	2	3	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	24
茶道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
華道	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
美術	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
書道	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
その他	9	7	16	5	6	3	1	1	2	1	1	2	3	5	3	65
計	33	46	144	29	40	11	47	12	32	14	6	18	31	19	12	494

※ 複数回答のため、数字は延べ人数

その他の内容	人数	その他の内容	人数	その他の内容	人数	その他の内容	人数
プログラミング	1	アーチェリー	1	ボランティア	1	文芸	1
カヌー	1	馬術	1	ノルディックウォーキング	1	アニメ	1
マンガ	1	ゲーム	1	イラスト	1	登山	1
ボッチャ	1	相撲	1	軽音楽	2	管弦楽	1
演劇	5	写真	2	囲碁	1	ハンドボール	1
リコーダー	1	ドローン	1	放送	1	フットサル	1
クイズ研究会	1	和太鼓	1	琴・三味線	1		